

科目名		授業形態	担当教員名	
脊髄損傷理学療法		講義・実習	窪津 秀政	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
脊髄損傷特有の理学療法に対して、評価から治療に至るまでの必要不可欠な知識を理解する。また、損傷レベル別の理学療法について、基本的なプログラムからADLでの評価・指導までを実技を交えて学び、実践的なものとして今後の臨床でも役立つよう身につけることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 脊髄損傷の病態・評価方法について説明することができる。 2. 損傷レベル別の理学療法・日常生活自立度についても関係づけ模倣することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	脊髄損傷について（疫学や解剖・病態など）			
2	合併症（褥瘡対策、自律神経過反射、排尿排便障害、性機能障害など）			
3	脊髄損傷の評価（ASIA、Zancolliの分類など）			
4	（実習）脊髄損傷の評価			
5	頸髄損傷の理学療法（急性期から回復期にかけて）			
6	（実習）頸髄損傷の理学療法（床上動作、プッシュアップなど）			
7	胸腰髄損傷の理学療法（急性期から回復期にかけて）			
8	（実習）胸腰髄損傷の理学療法（床上動作、プッシュアップ、歩行など）			
9	車椅子について			
10	（実習）車椅子について（兵庫県更生相談所規定に則した採寸、処方箋記入、車いす操作技術など）			
11	不全型脊髄損傷の理学療法			
12	（実習）不全型脊髄損傷者を迎えるの実技			
13	（実習）頸髄損傷者を迎えるの実技			
14	（実習）胸腰髄損傷者を迎えるの実技			
15	住宅改修、日常生活動作について			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	国家試験レベルの理解がある 脊髄損傷者のADLが説明できる		
レポート				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版	岩崎洋 編		文光堂	
自由記載	講義資料を配布			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				